



▲青しまうり漬の人気アップや安全輸送などの願いを込めてテープカットをする関係者



▶夏の贈答用に発送準備が進む紙器タイプの青しまうり漬。「野菜を漬けて再利用できる酒粕が重宝する」と好評のタル容器タイプの2種類が製造されています。(JAの野菜加工場)

湾岸署の青島刑事も賞味！？

夏の贈り物に人気！多久市特産『青しまうり漬』

多久市特産『青しまうり漬』の発送式が7月1日、市役所であり、第一便が全国へと出発しました。

青しまうり漬は、市内の生産者を中心に栽培したウリをJAが集荷・製造した酒粕漬。全工程が手作業で、無添加とカリッとした歯ごたえが特徴で、その自然の味は全国に根強いファンを持ちます。

式では、ゆうパックを取り扱う多久郵便局の宮丸典子局長が「お客様の顔を思い浮かべながら、生産・製造・PR・販売に携わるみなさんの熱い思いとチームワークがひとつになり発送できるこのうり漬は、多久の誇り」と。横尾市長は「念願の東京湾岸署に送り、首都圏へのPRにも工夫し、多久を発信したい」と激励。市では、早速、3月末に開署された東京湾岸署の野口署長と映画やテレビでお馴染みの『踊る大捜査線』で織田裕二さん扮する主役・青島俊作巡査部長宛にメッセージを添えて、青しまうり漬を送りました。後日、野口署長から横尾市長へ直接お礼の電話があり、「あ・お・し・ま」つながりのご縁が新たな多久のファンを作りそうです。

愛情たっぷり“23野菜カレー”も大好評

砂原区の二十三夜祭

砂原区の夏祭り『二十三夜祭』が7月23日、砂原駐車をメイン会場に行われました。

夕方、公民館をスタートした子どもみこしの区内練り歩きに始まり、二十三夜塔の御神塔前では、浴衣姿の女の子がお茶と煮豆で参拝客を接待。砂原駐車場に設営された舞台では、子どもたちのゲームや、森都劇団による肥後にわか喜劇や歌謡ショーなどが繰り広げられました。舞台周辺は、露天のテントから威勢のいい声が祭りを盛り上げていましたが、中でも商工会青年部のテントでは、二十三夜祭にちなんだ“23野菜カレー”を販売。使用した23種の野菜全部の効能も紹介したきめ細かさで、「不足しがちなビタミンを補給し、夏の暑さを乗り切ってほしい」の愛情たっぷりとおいしさが大好評でした。

歌あり、笑いあり、美食ありで、多くの家族連れが夏の一夜を満喫していました。



▲お茶豆灯籠と言い、お茶と煮豆で参拝客を振舞う浴衣姿の女の子



▲ドライバーに交通安全啓発のチラシやうちわを手渡す交通安全母の会

みんなで交通安全を願って“うちわ”を配布

夏の交通安全県民運動

事故防止や飲酒・暴走運転の根絶、シートベルトの着用の徹底などを目指し、7月9日から18日まで夏の交通安全県民運動が展開されました。

多久市内でも運動の初日は、交通安全指導員や交通安全母の会のメンバーら約30人が、多久町の県道沿いで啓発のチラシやうちわなどが入った袋200セットをドライバーに配布。うちわは、内輪の家族や仲間の意味に掛けて、みんなで交通安全を願ったもの。

「気をつけて、これからも安全運転で！」の声掛けと笑顔に、ドライバーは「ご苦労さま」と言って一息。気を引き締め直し、それぞれの目的地へ向かっていました。